

生徒の感想



1) バンクーバー留学・SGIC に決めたきっかけは何ですか？

カナダはがほかの国と比べ、人口は多国籍である。アジア人への差別も少ないこと、より多くの文化と触れ合うことができる点からカナダを選択。

バンクーバーは、都会過ぎないが公共機関等の整備もしっかりしている。そして、自然が多いのも魅力の一つであった。又、冬も気温がマイナスになることは滅多になく、夏も 30°以上には基本ならないことから、生活するのに快適である。過去にバンクーバーに留学した友人の勧めもあり、一度下見した上でバンクーバーへの留学を決意。

SGIC に決めた点

- ・学校が比較的小規模且つ日本人の国籍比率も低い点。
- ・English Policy の徹底を謳っている点。
- ・アクティビティの充実さ。

以上の点から、より集中して学習でき、尚且つ英会話をする機会が十分にあることから、英語力を伸ばす上で最適と考え、SGIC へ入学を決意。

2) SGIC のプログラムを受講し、どのようなスキルを得たか/ 伸びたか、良かったことを教えてください。

ESL: 中学・高校で学習したものの再確認が出来た。高校卒業後、大学・社会人と進む中で英語のみを学習する時間を確保するのは難しい。しかし中高にて基礎はあるので、再度 ESL にて文法や基礎を学習することにより、どの点が抜け落ちていたか、そしてどの点をより集中して復習すべきかを識別できる。ESL にて基礎を固めることで、その後のコースでの勉強に大いに活きた。又、ESL は他コースと比べ受講人数も多い。その為、多くのクラスメートと会話する機会にも恵まれる上、授業で学習したものをすぐその場での会話に使用できるチャンスが多いことも ESL の良い点であったと考えている。

お名前： Yutaro

受講期間：

2020 年3月～9ヶ月間

受講クラス：

- ①ESL ②SSP ③IELTS
④PPP

SSP : 僕自身、一番取って良かったと言えるプログラム。それまで、自分の発音が決して良くはないと感じながらも、どう直せばいいか、果たして正しく直っているのか分からなかった。本コースでは、発音や会話上でのルールをまず学習。講師も言語学を専攻してきた方なので、国籍特有の癖も熟知。その説明を踏まえたうえで、どこに注意すべきかを学習。ルールとして学ぶことで、より頭に入ってきてやすい。又、SSP というコース名の通り、会話する時間はかなり多いことも良かった。日常会話のような生徒間で会話・お題を決めてのパワースピーキング・プレゼンテーションなど行うことで、自分自身の発音・会話の癖、修正点の確認が出来た。講師も人それぞれの癖を指摘し、それに応じて解決策や参照すべきルールを提案してくれたことで発音の改善を実感。又、自分から積極的に発言していけばいくほど、講師からのミスの指摘もある（＝改善のチャンスが広がる）且つ発音・会話の練習にもなる。加えて、欧米の文化によく見受けられる“自分の意見を主張できるようになりたい”と考えている人にとっても、良い機会と考える。実際、本コースにて学習後、より自分の意見を主張するようになり、更にスピーキング・リスニングにおいての成長を実感した。（ネイティブとの会話や海外ドラマ鑑賞において）



IELTS : IELTS 対策授業。授業内・課題を通してとにかく問題を多くこなしていく。僕も含め、“IELTS＝資格＝難しい・取つきにくいもの”と感じている人は少なくないだろう。まして、TOIEC や TOFLE は日本ではよく目にしたが、IELTS はより親近感がなかった。しかし、問題をこなすことで、IELTS に対する苦手意識・恐怖感が解消。期末の本番さながらのテストも臆することなく、平常心で臨めた。そして授業中においても、ただ答え合わせするだけでなく、IELTS における一種のルールやキーポイントなどの説明も同時に行ってもらったことで、より分かりやすかった。特に、IELTS において良いスコアを取る為にしっかり対策せねばならないエッセイ。講師は、一人一人のエッセイに修正点を詳しく説明し、またそれを授業で共有。良い人の例はその後の自分のエッセイに活かすこともできるし、一方でミスの例も共有することで、その後の自分自身の注意点となった。何度もエッセイを書くことは決して簡単ではなかったが、結果として受講後にはエッセイについてはかなり自信がついた。僕自身、すぐには IELTS のスコアが必要ではないため、当初受講する意味はないのではないかと考えていたが、スコアが必要・不必要にかかわらず、このコースを受講したことでより英語力の向上となった。



PPP : 北米の大学やカレッジ、専門学校入学に向けてのプログラム。IELTS とはまた違った形式の問題であったため、初めは少し戸惑った。よりアカデミックな文法の確認、そしてそれを活かしてのエッセイの練習。“学習→すぐ数問を解く→復習・間違った個所の確認→再度似た形式の問題を解く”というルーティーンでやっていくことにより、より頭に定着しやすかった。中には、ESL で学習した文法の応用もあったため、再度確認とスキルアップが出来た。週 1,2 でパートごとのテストを実施。自分の間違いやすい箇所の確認にもなった。エッセイにおいては、何度も書くことで自分流の書き方・良い意味での癖を確立。先生から良くするための工夫も教わり、IELTS とは違ったタイプのエッセイにおいても自信をもって臨めるようになった。



3) コロナによる授業の影響

世界的なコロナウイルス感染により、授業のほとんどはオンラインとなった（実際、登校したのは3月上旬の2週間のみ）。約9か月間のオンライン授業であったが、英語力の向上を実感している。勿論、対面授業の方が好ましいし、実際オンライン授業に疲れた時期もあったが、オンライン授業ならではの収穫もあった。SGICは、バンクーバーだけでなく、トロントにも校舎を持つ。コロナ拡大により、バンクーバーとトロント両方の学生を一つのオンライン授業でやることになり（時差もあるため、授業時間など柔軟に対応）、いくつかの授業の講師もトロントの先生であった。バンクーバーの講師による授業を受けていないプログラムもあるので比較はできないが、僕自身としては良い出会いであったと感じている。トロントの学生とも友人になり、教師とも良い関係を築けた。コロナの状況が一時良好化していた夏に一度トロントへ国内旅行をした。そこで、クラスメート・教師と再会。もし、オンライン授業にならなければ出会うことがなかった人々である。その人々がいないければトロント旅行もしなかったかもしれない。『少しでも多くの人と繋がりたい・様々な文化を見たい』という留学の一つの目的も、幸いにもコロナにより達成したのである。勿論、いち早くコロナが終息することを望むが、この難しい状況において必ずしも悪い点ばかりではなかったと感じている。

4) 講師について教えてください。

講師の方々は、とても親切でフレンドリーな方々であった。授業も生徒のペースに合わせ、丁寧であった。日本とカナダの文化の違いとして、『仮に正解でなかったとしても、褒める・少なからずあるであろう良かった点を認める。』“があると感じた。SGICは小規模であるが故、それがより顕著に感じた。僕も含め、生徒は臆することなく自分の意見を主張し、そして成長できる。そういった点も、大規模でない学校の魅力の一つだろう。卒業した今でも、何人かの講師とは連絡を取り合うこともある。卒業しても、何かわからないことがあればいつでも連絡してきて良いと言ってくれる講師もいる。又、放課後や休日に食事に誘ったら来てくれた講師もいた。SGICは生徒との距離が近く、講師もフレンドリーそして勿論皆ネイティブなので、そういった環境に身を置きたいと考える人にとっては最適な環境だろうと考える。

5) 今後の計画と目標を教えてください。

今後、ビジネスカレッジに進学予定。留学前はカレッジに行くにあたって、授業についていけるだけの英語力があるが自信がなかったが。しかし本校にて学習したことで、ライティング・リスニング・スピーキング・リーディング全てにおいて成長を実感し、自信をもってカレッジに進学できる。コロナウイルス拡大に伴い、オンライン授業・アクティビティは中止という形での卒業となったが、それを踏まえてもSGICを選択して良かったと感じている。小規模ならではの魅力が詰まった学校である。カレッジ卒業後は未定であるが、英語を使用する職に就くことは決めている。その為にも、慢心することなく日々自分と向き合い、より成長していきたい。

